

千松小学校
「学力向上実行プラン」

○児童が自分の思いや考えをもち、対話することを通して考えを広げたり深めたりする授業の実践

○認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上 推進員	委員	校長：山崎眞弘	教頭：野上真由美	教頭：三岡功和	教務：三浦弘章
	野本佳代	指導教諭・6年主任：西山あけみ	5年主任：平美由紀	4年主任：乗原亜津紗	3年主任：清水由香
		1年主任：篠原芳	研修主任：森美帆	特別支援学級主任：岡本直美	若手教員研修主任：島田加奈

校長

山崎眞弘 印

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○学習に真面目に取り組む児童が多く、基礎・基本的な知識・技能は、身に付いてきている。 ●全体的な学力の低下が見られる。基礎・基本的な知識を活用することに課題がある。	・既習学年や当該学年の基礎・基本的な知識や技能を確実に習得することができる。 ・身に付けた知識や技能を他の学習や生活の場面において活用することができる。	・正確に読み取らせるために、教科書にアンダーラインや囲みを入れた確に捉えさせる。 ・ドリルやプリント、タブレット端末を活用して、既習事項を繰り返し復習できるようにする。 ・光る子十カ条を徹底し、授業や家庭学習にじっくり取り組む習慣をつけられるようにする。	・これまでの方策を継続しつつ、それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。また、タブレット端末のドリルや学習プリント、学力向上確認プリントなどを使って、学習の定着を図る。	・低学年では、既習学年や当該学年の基礎・基本的な知識や技能を習得することができている。高学年でも、大部分の児童は基礎・基本的な知識や技能を習得することができているが、既習事項を忘れていたり、四則計算や計算力の定着が難しかったりする児童もいる。また、資料を読み取り、必要な資料を取り出して活用するなど、既習事項の活用が苦手な児童もいる。	・AIドリルなど、児童の苦手な部分を繰り返し学習させる。 ・定期的に既習事項の復習プリントなどに取り組みせ、学習の定着を図る。 ・家庭との連携や家庭学習の充実に努める。

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○友達の意見を聞こうとする態度が身に付いてきている。 ●根拠を明確にして自分の考えをもち、思いや考えを表現したり、伝え合ったりすることを通して、さらに考えを広めたり深めたりすることに課題がある。	・学習で課題を見つけ、話し合い活動を通して解決する方法を考えることができる。 ・自分の考えを明確にもって相手に伝えたり、相手の話を自分の考えと比べながら聞いたりして、考えを広げたり深めたりすることができる。	・ホワイトボードやメモ・付箋、タブレット等を活用して自分の思いや考えを書く場面を増やす。 ・相手意識や目的意識をもって、ペアやグループで話し合う機会を効果的に設定する。 ・児童の発表内容に応じ、更に考えが深まる発問を行う。 ・自分の考えをまとめたり意見交換をしたりする場面などで、タブレット端末を効果的に活用する。	・これまでの方策を継続しつつ、発達段階に応じてタブレットを活用したり、表現の仕方を工夫したりしていく。また、友達と考えを共有する場では、思考の過程を表現したり説明したりすることができるよう、指導の工夫を行う。	・ノートや付箋、タブレットなどで自分の意見をまとめ、友達に伝える力がついてきている。また、相手の意見を知るために聞こうとしたり、話し合いなどをして解決しようとしていたりしている児童も増えてきている。しかし、相手と自分の意見を比べて聞き、考えを深めたり広げたりすることには、いたっていない。	・今年度に引き続き、自分の意見を伝えられるよう、教具や学習形態を工夫したり、話し合いの場の設定をしたりする。 ・話し合いの見通しがもてるよう、手立てや手引きの研究を進める必要がある。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○授業に一生懸命取り組む。与えられた課題には、真面目に取り組む。 ●自分で課題を見つけて、工夫して学習に取り組もうとすることに課題がある。自信をもって取り組むことが苦手な児童もいる。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・学ぶ楽しさや喜びを感じることができるとともに、自分に自信をもつことができる。	・学習に主体的に取り組むことができるように、学習課題やその解決方法を児童と共に考える。 ・児童のがんばりや成果を褒め、達成感や次時への意欲、課題意識をもてるようにする。	・これまでの方策を継続しつつ、がんばりや成果が実感できるようにする。また、児童同士のかかわりからも、主体的に学習に取り組む態度の育成につなげていく。	・与えられた課題に一生懸命取り組むことができる。 ・できることが増え、自尊心やメタ認知の高まりで、主体的な取り組みにつながるが増えてきた児童もいる。しかし学力差が大きく、課題意識をもつことにも差があり、自分から課題を見つけて取り組むことは難しい児童もいる。	・スモールステップで少しずつ積み上げ、児童の成長を認める。 ・見通しをもたせるため、学習の流れを前もって確認し、意欲をもたせる。 ・児童が意欲的に取り組もうとするための課題の提示の仕方を工夫していく。 ・自立した学び方を児童に示す。

令和6年度 学力向上ロードマップ

